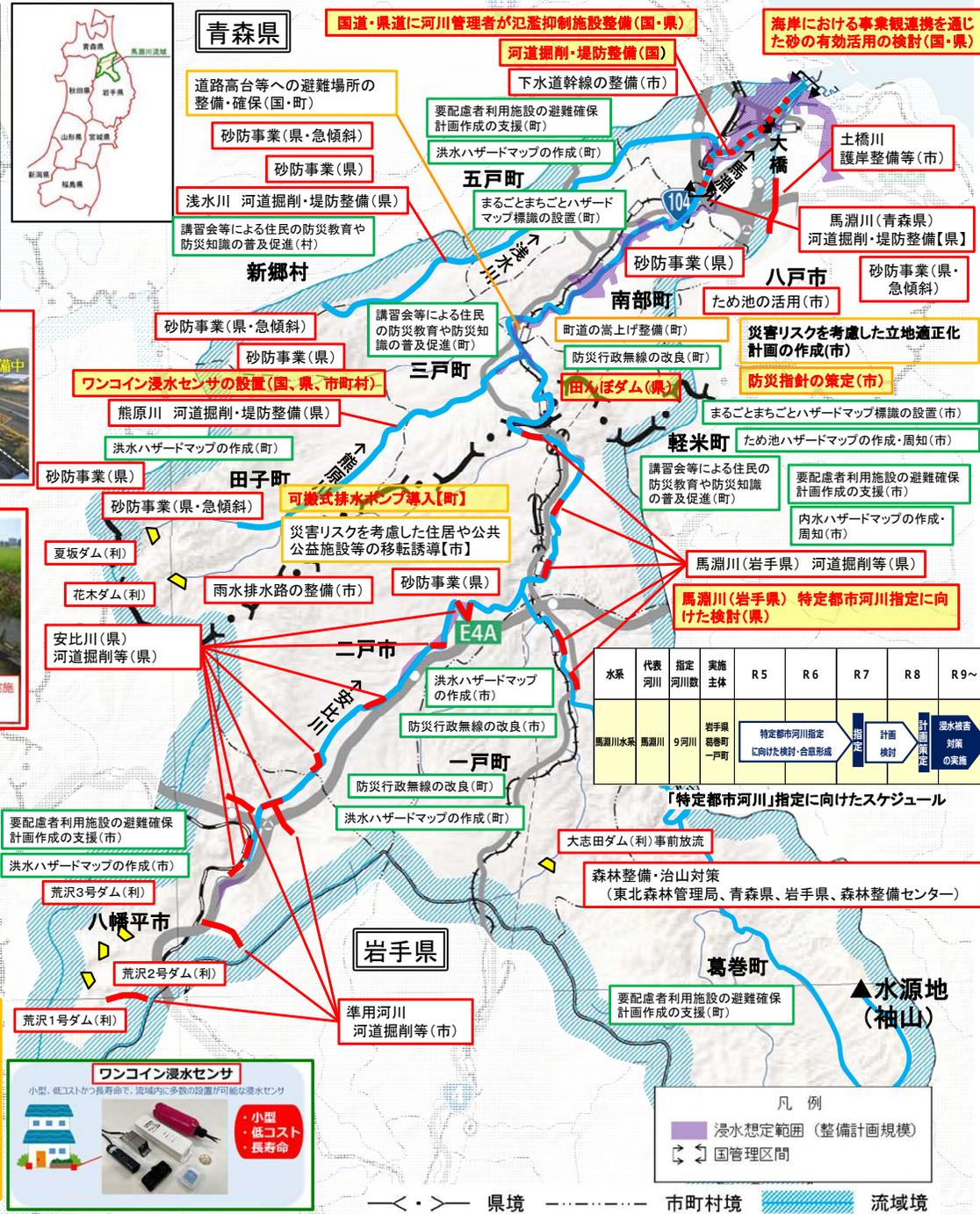


馬淵川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～豊かな自然を抱えるふるさとを水害から守る青森と岩手が一体となった治水対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取組を一層推進していくものとし、更に国管理区間においては、**気候変動(2℃上昇時)下でも目標とする治水安全度を維持するため、昭和22年8月洪水の降雨量増加(雨量1.1倍)を考慮した場合と同規模の洪水について、中流部の貯留・遊水機能を考慮した流量を安全に流下させることを目指す。**
- 気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来にわたって安全な流域を実現するため、**特定都市河川浸水被害対策法の適用を行い、さらなる治水対策を推進する。**
- 馬淵川水系では、これまでも流域が一体となって堤防整備や河道掘削、中流部においては地形特性を考慮した宅地嵩上げや輪中堤等の整備を進めてきた。国道や鉄道が並行する交通の要衝であり、水田や果樹栽培等の地域産業が盛んな沿川市町村と、全国屈指の水産業・工業都市である八戸市の観光資源や地域産業を支える安全・安心なまちづくりを実現するため、あらゆる関係者が協働して流域治水に取り組む。



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・洪水氾濫対策
(河道掘削、堤防整備、既存ダムにおける事前放流等の実施、体制構築等、**海岸における事業間連携を通じた砂の有効活用検討、インフラDX(施策)における河川管理の高度化・効率化(3次元点群データの活用等)**)
 - ・内水氾濫対策
(下水道幹線の整備、雨水排水網の整備、**可搬式排水ポンプの導入**)
 - ・流域の雨水貯留機能の向上
(**水田貯留(田んぼダムの取組拡大)**、森林整備、治山対策、ため池の活用等)
 - ・**特定都市河川指定に向けた検討**
 - ・森林保全の治山対策による流出抑制・流木対策等
- ※今後、関係機関と連携し検討



■被害対象を減少させるための対策

- ・水災害ハザードエリアにおける土地利用や住まい方の工夫(道路高台等への避難場所の整備・確保、町道の嵩上げ整備、**国道・県道に河川管理者が氾濫抑制施設の整備**)
 - ・まちづくりでの活用を視野にした水災害リスク情報の充実
(災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成、**防災指針の策定**、防災力向上等)
- ※今後、関係機関と連携し検討



■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・土地の水害リスク情報の充実
(気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策、まるとまごハザードマップ標識の設置、内水ハザードマップの見直し、ため池ハザードマップの作成及び周知、水害リスク空白域の解消、簡易型監視カメラ・危機管理型水位計の設置等)
 - ・避難体制等の強化
(**「水害リスクライン・洪水キキクル」普及・利活用促進、「命を守る行動」につなげる情報発信(ワンコイン浸水センサの設置)**、防災行政無線の改良、要配慮者利用施設の避難確保計画作成の支援、メディアと連携による防災情報の提供、避難場所や経路に関する情報の周知、住民の防災意識向上のための取組等)
 - ・関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化
(役場庁舎を高台へ統合移転、水防資機材の拡充等)
- ※今後関係機関と連携し対策検討



水系	代表河川	指定河川数	実施主体	R5	R6	R7	R8	R9~
馬淵川水系	馬淵川	9河川	岩手県 巻町 一戸市	特定都市河川指定に向けた検討・合意形成	指定	計画	検討	浸水被害対策の実施

「特定都市河川」指定に向けたスケジュール

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。